

# 若手研究者 育成プロジェクト

---

東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センターでは、2019年度より、研究科の大学院生を対象として、バリアフリーやインクルーシブ社会、ダイバーシティ等に関わる意欲的な研究プロジェクトを助成し、研究の支援を行う「若手研究者育成プロジェクト」を開始した。

バリアフリーやインクルーシブ社会に関わるテーマは、多様な分野からのアプローチが可能であり、教育哲学、教育史、教育方法学、教育心理学、臨床心理学、教育社会学、比較教育学、教育行政学、身体教育学、社会教育学をはじめ教育学のあらゆる領域が潜在的な関連分野となる。こうした既存の専門分野の垣根を越え、学際的で多角的なアプローチがそれぞれの知見を相互参照しつつ発展していくことで、社会的な分断をもたらす言説に抗し、インクルーシブな社会の構築に資する知の基盤が形成されていくことを目指している。

2021年度は「インクルーシブ教育」を「障害のみでなく、性差、民族差、経済格差など子どもたちの多様な差異の包摂を、主として普通学校・普通学級の制度や教育方法の改革によって実現しようとする教育」と定義した上で、その観点から、多様な差異を包摂し得るために必要な基盤（または前提）となる知識、または教師の専門性について明らかにする「インクルーシブ教育に関する知識の基盤や教師の専門性」をテーマとした研究プロジェクトを募集した。結果、個人研究3件、グループ研究1件、計4件の研究プロジェクトを実施した。

2022年度は、主に学校教育において、障害・性差・民族差・経済格差等の多様な差異を持つ子どもたちが包摂される状態への変容を促進する教育実践・教育制度の探究を行う「教育におけるインクルージョン」と、多様な差異を持つ人々が共存・共生する市民社会の形成に資する教育内容・教育方法の開発を行う「インクルーシブ社会実現のための教育」をテーマとする研究プロジェクトを募集した。結果、個人研究3件、グループ研究1件、計5件の研究プロジェクトを実施した。